



保健センターからののお知らせ

●問い合わせ ● 鴻巣保健センター(☎543-1561、FAX 543-5749) 吹上保健センター(☎548-6252、FAX 549-2696)
※鴻巣保健センターにお車で越しの方は、市役所駐車場をご利用ください

！蚊媒介感染症にご注意を！

暑い時期になると蚊が発生します。蚊は、さまざまな感染症を媒介する恐れがあります。平成26年にはデング熱の国内感染が発生し、平成28年には世界保健機関が中南米地域でジカウイルス感染症について緊急事態を宣言しました。感染症を防ぐためには「蚊を増やさない！蚊にさされない！」ことが大切です。

蚊を増やさない！

- 蚊は植木鉢の受け皿やプラスチック容器などに溜まった雨水などの小さな水たまりで発生します。日頃から清掃を心掛けましょう
- 1週間に1回程度は、雨水が溜まった容器を逆さにするなど周囲の水たまりをなくすようにしましょう

蚊にさされない！

- 蚊が多くいる屋外で活動する場合は、長袖シャツや長ズボンなどを着用し、できるだけ肌を露出しないようにしましょう
- 足首・首筋などの小さな露出面や薄手の衣服の上からでも刺されることがあるので、虫よけ剤などを利用しましょう
- 網戸や扉の開閉をできるだけ減らし、蚊取り線香を昼間から使用するなど、できるだけ家の中への蚊の侵入を防ぎましょう
- 蚊が家の中に侵入した場合は、スプレータイプの殺虫剤などで駆除しましょう

♡各種相談等のご案内

詳細は鴻巣・吹上保健センターに電話でお問い合わせください。

こころの健康相談

とき／8月2日(火)臨床心理士＝9時30分～吹上、保健師＝13時30分～鴻巣

申込み／開催前日まで

いきいき健康相談

とき／8月3日(水)9時30分～鴻巣、8月31日(水)9時30分～吹上

申込み／開催前日まで



健康生活

Q 女性の性感染症について教えてください

A 皆さんは「性病(性感染症)の検査は受けたことがありますか？」もし「こころの健康相談」で「性病?私は大丈夫」とほとんどの方は答えると思います。ところが、ひと昔前の限られた人の病気という性感染症に対する概念は大きく変わり、性に対する意識の開放化、性行為の多様化などに伴い、若い世代を中心に近年増加しつつあります。

性感染症とは、主に性行為により粘膜を介して体液(血液、精液、膣分泌液など)から感染する病気の総称で、梅毒、淋病、HIV(ヒト免疫不全ウイルス)、尖圭コンジローム、性器ヘルペス、B型肝炎、性器クラミジア感染症、トリコモナス原虫による感染症など多くの疾患が知られています。発熱、リンパ節腫大、腹痛、発疹、性交痛、帯下の増加、かゆみ、水泡、潰瘍、イボ、しこり、不正出血など疾患ごとに多彩な症状を示します。また、口腔内、咽頭に感染を起こすことも珍しいことではありません。

性感染症は拡大している可能性も指摘されています。無症状であっても進行すると子宮頸管炎や卵管炎から不妊症、子宮外妊娠、骨盤腹膜炎など重篤な疾患を引き起こしたりすることもあります。妊娠中には流産、早産の原因となったり、分娩時の産道感染により新生児への感染(肺炎、結膜炎)を引き起こします。「症状が無いから私は大丈夫」と過信し放置することは非常に危険であり、治療にあたってはパートナーと同時に治療することも必要です。

近年、性感染症は早期発見・早期治療をすることで比較的容易に治療することが可能です。気になる自覚症状を感じたら、もしくはその可能性が疑われたら気後れせずに早めに婦人科を受診することが何より重要です。

(一般社団法人

鴻巣市医師会)

軽度か、ほとんど症状が出ないところが、感染しても症状が

